

**既存科目に放射線看護内容を2コマ入れる提案**

- 【授業形態】 講義
- 【担当教員】 各大学担当教員名
- 【開講年次】 各大学の開講年次 (2年次または3年次)
- 【単位数および時間数】 2コマ (4時間)

**【科目の主題】**

看護職に必要な放射線の基礎知識、放射線を用いた検査・治療の概要と看護の基本、放射線防護の方策を学ぶ。

**【授業の到達目標】**

1. 放射線診療 (放射線診断、放射線治療) の概要と看護職の役割について理解できる。
2. 放射線診療に用いられる放射線の基礎知識が理解できる。
3. 放射線診療に伴う放射線被ばく線量が理解できる。
4. 看護に必要な放射線防護の基本と放射線被ばくに対する患者・家族等の不安が理解できる。

**【授業内容・計画】**

回数	授業内容	教育内容
第1回	<p>【講義】 放射線診療の概要と看護職の役割</p> <p>放射線診療に用いられる放射線に関する基礎知識</p>	<p>放射線診療の種類と概要、看護と放射線診療との関わり 放射線診断、放射線治療、核医学診断・治療の各論</p> <p>放射線の種類と特徴：透過/遮へい、物質との相互作用など (注1) 身近な放射線 (自然、人工：医療・工業等) の存在とそれに伴う被ばく線量 被ばく線量を理解するための放射線の単位の理解 放射線被ばくと影響：人体影響の発生機序と種類 (確定的影響と確率的影響)</p>
第2回	<p>【講義】 放射線診療の安全管理と看護職の関わり</p> <p>放射線防護と放射線被ばくに対する不安と対応</p>	<p>放射線診療に伴う有害事象 (副作用等) と看護職の役割 医療利用と被ばくの区分 放射線診療と被ばく線量 放射線診療の安全管理における看護職の役割</p> <p>放射線防護の目的、放射線防護の3原則 放射線被ばくに対する不安への対応、放射線・原子力災害の際の看護職の役割</p>

- 注 1) 可能であれば、簡易測定器 (日立アロカ：PDR-111 など) を用いたデモンストレーションにより、放射線の存在と特徴についての学生の理解を深める。
- 2) 効果的な教育を行うためには、診療放射線技師の協力を得ながら教育を展開することが望ましい。
  - 3) 授業時間を確保できる場合は、1 単位 (15 時間) 分から内容を精選・追加して講義内容を組み立てても良い。